

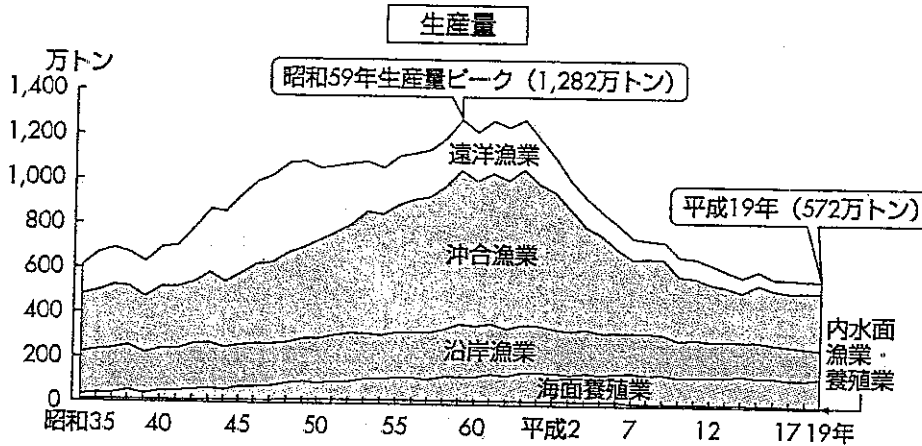
# 我が国水産業をめぐる動向について

資料 5

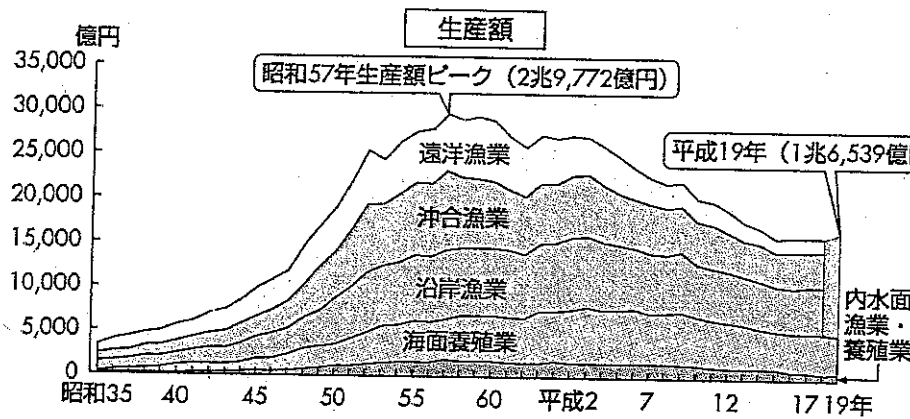
## (1) 漁業・養殖業生産量

○19年の我が国の漁業・養殖業生産量は前年並みの572万トン。海面漁業は7万3千トン減少、海面養殖業は6万トン増加。生産額は1兆6,539億円。

漁業・養殖業生産量・生産額の推移



		19年 (千トン)
生産量	合計	5,720
	海面漁業	5,639
	遠洋漁業	4,396
	沖合漁業	506
	沿岸漁業	2,603
	養殖業	1,287
	内水面漁業・養殖業	81



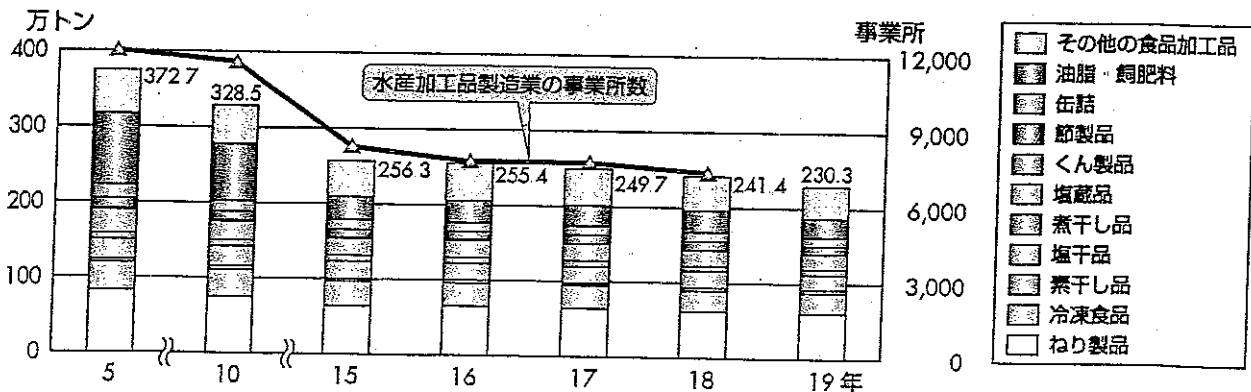
		19年 (億円)
生産額	合計	16,539
	海面漁業	15,757
	遠洋漁業	...
	沖合漁業	...
	沿岸漁業	...
	養殖業	4,490
	内水面漁業・養殖業	782

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

## (2) 水産物の加工・流通業をめぐる動向

○水産加工品の生産量は、水産物の消費低迷や経営体数の減少等を背景に減少。事業基盤の強化を図るとともに、消費者ニーズに的確に対応した国産加工品の開発等を推進。

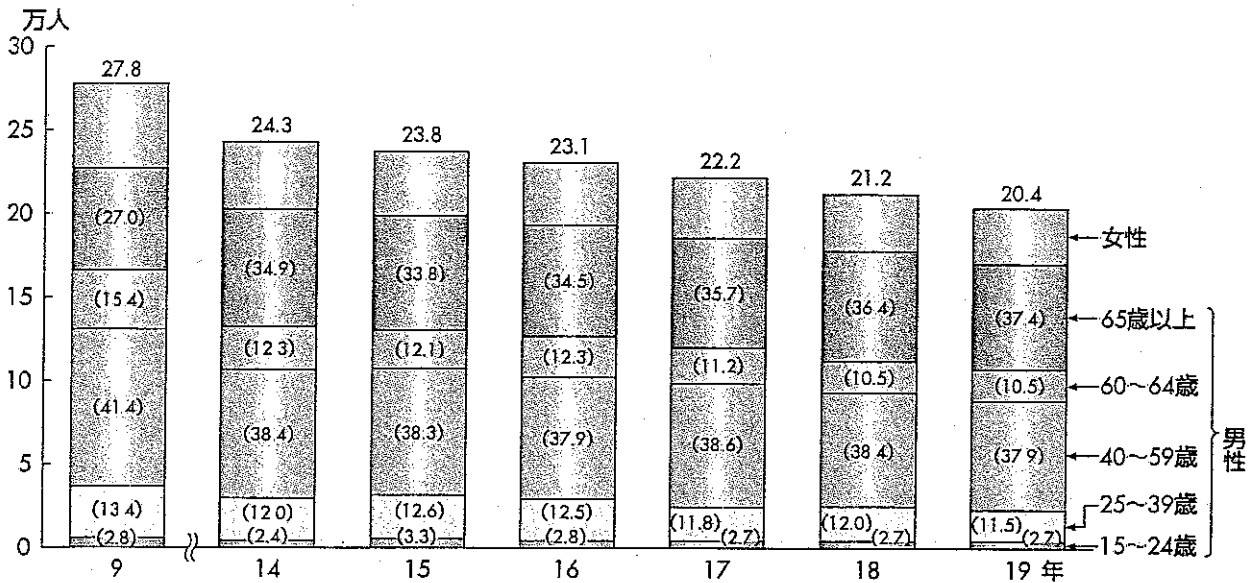
水産加工品の生産量及び製造事業所数の推移



資料：農林水産省「食料需給表」、「漁業・養殖業生産統計年報」、「水産物流通統計年報」、(社)日本缶詰協会「缶詰時報」、(財)日本水産油脂協会「水産油脂統計年鑑」及び経済産業省「工業統計」

(3) 漁業就業者数の推移

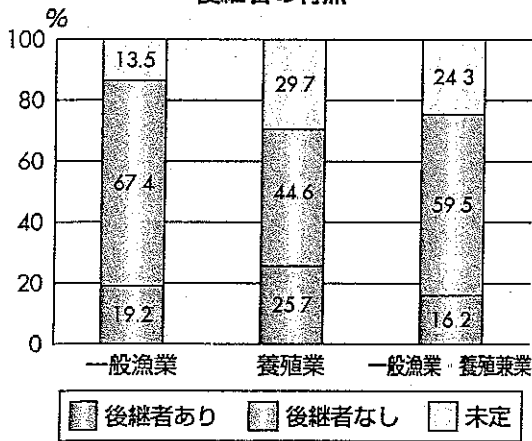
○漁業者の減少・高齢化が進行。19年の漁業就業者は20万4千人。男性の漁業就業者のうち、65歳以上の漁業者が37.4%を占める一方、新規漁業就業者は1,081人。



資料：農林水産省「漁業動態統計年報」（9年）、「漁業就業動向統計年報」（14年）、「漁業センサス」（15年）及び「漁業就業動向調査報告書」（16年以降）

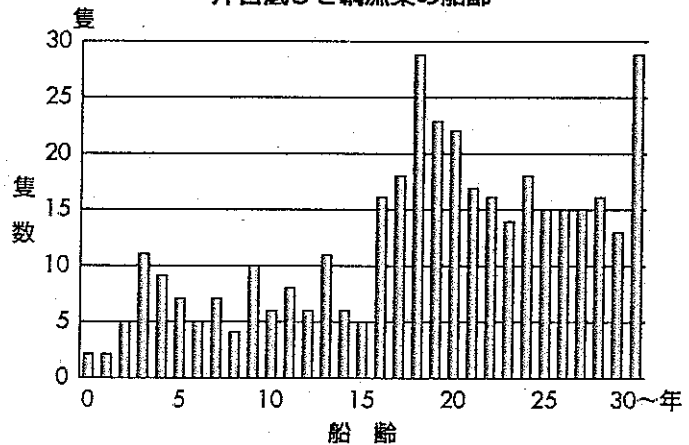
- 「後継者がいる」と答えた漁業者は2割以下。若い担い手の不足によって、将来の漁業の活力低下を招くことが懸念。
- 漁船についても漁業経営の悪化を背景に代船建造が進まず、高船齢化が進行。

後継者の有無



資料：農林中金総合研究所「漁協組合員アンケートに見る漁業の現状と課題」（平成20年）有効回答数1,505名

沖合底びき網漁業の船齢



資料：水産庁資料（平成20年1月現在）

(4) (漁業経営の状況)

○19年の沿岸漁家（沿岸漁船漁家・海面養殖漁家・小型定置網漁家）1世帯当たりの漁労所得は、327万円。

沿岸漁家の漁労所得の推移

(単位：万円)

	13年	14	15	16	17	18	19
沿岸漁家平均	299.5	287.1	271.1	282.3	280.1	296.9	326.6
沿岸漁船漁家	225.7	226.7	215.6	215.3	214.3	246.6	274.2
海面養殖漁家	686.9	602.3	570.8	626.2	611.4	507.6	538.4

資料：農林水産省「漁業経営調査報告」を基に水産庁で作成